

お姑さん、ありがとう

三浦国子

秋田県・五四・農業

お姑さん今頃どうしておりますか。逝って七年の歳月がすぎましたね。女手で四人の子供を育て、姑小姑をかかえ家を守り、口では言いつくせないほどの苦労を重ね、本当にごくろう様、ありがとうございました。

今年で戦後五〇年でしたよ。戦没者の追悼式に参列させていただきました。お姑さんどんなおもいで参列されたことでしょう。涙がとまりませんでした。

「ずいぶんと淋しく悲しくつらい思いもしましたが、まわりの皆様の温かさに励まされ、どうにかこれまで生きてこれましたよ」と話をしてくれたように、じつとつらさに耐え抜いて、けなげに生きたその優しさは、まわりから家族共々から愛され慕われたのですね。いつもにこやかにごくろうさん、ありがとう、がんばれといいたらない私を励ましてくれましたね。

別れて淋しく空しいおもいでしたが、私にはお姑さんが育ててくれた息子（父

さん）がいます。仕事で朝早く帰りは遅いという生活です。用件はメモで連絡しています。ある日ある時やはり、ごくろうさん、ありがとう、がんばれが書いてくれているのです。日頃口数少ない人だけに、このことばの一言がきらりとひかります。ちよつぴりと愛しく胸にあつい恋心をいだかせてくれます。お姑さんも息子（父さん）も好き、好き大好きですよ。

一人では喧嘩もできませんよと嘆いていたお姑さん、これからは息子（父さん）と喧嘩しないように、仲よくもつとだいにいたわろうと感謝する気持ちでいっぱいです。

おばあさん、おじいさんのご冥福をお祈り申し上げます。

どうか私達をお守りくださいね。

合掌

一月七日

お姑様

*自分で苦勞した分、よそ様の気持ちを大事にする、苦勞をわかちあえるお姑さんだったので。いたらない嫁でしたがいろいろと教えていただいた分、私はしあわせです。